

第5学年1組 家庭科授業案

授業者 陶山 晴代

場 所 5の1教室

1 単元名 マイポーチ作りで手ぬいばっちり ～はじめてみようソーイング～

2 単元の目標

- ・ 手縫いに関心をもち、目的に応じた縫い方で製作し、その楽しさや活用する喜びを味わっている。
(関心・意欲・態度)
- ・ 手縫いによる目的に応じた縫い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(創意工夫)
- ・ 製作に必要な用具を安全に取り扱い、手縫いによる簡単な縫い方で小物を作ることができる。
(技能)
- ・ 製作に必要な用具の安全な取り扱い方、手縫いによる目的に応じた縫い方がわかる。(知識・理解)

3 単元設定の理由

子どもたちは、家庭科の授業をととても楽しみにしている。それは、今まで扱ったことのない道具を扱うことへの興味や、生活に必要なことが自分でできるという喜びからくるものと思われる。その中の一つが布で製作することである。布での製作に大変関心が高い一方、これまでボタン付けなどすべて家の人にやってもらっており、針と糸を使った経験のない児童がほとんどである。また、初めてのことに不安をいだき、消極的になりやすい児童もいる。

そこで、布で製作をする楽しさを感じ、意欲を高めながら、基礎的・基本的な技能を身につけていくようにし、日常生活で活用する能力を育てたいと考えた。初めて布で製作をする児童が多いので、用具の安全で適切な使い方を知り、糸を通すこと、玉結び・玉どめ、なみ縫い・かえし縫い・かがり縫い、ボタン付けと段階をふんでいき、技能を着実に身につけさせる。また、小物作りを通し、製作の喜びや楽しさを感じ、製作への自信を高めさせたい。取り扱う教材としては、学習内容を確実に習得できるもの、身近な素材を使って簡単に製作できるものであることを大切にして、ハンカチで作るポーチとフェルトで作るポーチの二つにする。

生活に役立つ小物を作りながら、基礎的・基本的な技能を身につけることでより意欲を高めていくようにしたい。そのために、玉結び・玉どめ、なみ縫いを練習した後に、ハンカチで作るポーチを製作する。ただ玉結び・玉どめ、なみ縫いを練習するのではなく、ポーチを完成させるという目標のために練習をするのである。その後、かえし縫い・かがり縫い、ボタン付けを練習して、フェルトで作るポーチを製作する。この時も、ただ練習をするのではなく、ポーチを完成させるという目標のために練習をするようにしたい。手縫いの学習の最終段階であるフェルトポーチ作りでは、一人一人にデザインを工夫させることで、自分でデザインする楽しさを感じさせたり、今度は〇〇を作ってみようとして生活に生かそうとする意欲を高めたりしたい。なお、必要に応じてペア学習やグループ学習を取り入れたり、学習の振り返りとして自己評価や感想、友だちのよさを学習カードに記入したりするようにする。それによって、助け合って学習することができるようにするとともに、観察による評価だけでは気づかない個々の課題を汲み取り、支援の方法や評価に結び付けることができるようにする。

4 単元構想（10時間完了）

裁縫用具と仲良くなろう ①

- 裁縫用具の種類と使い方、安全な取り扱い方を知り、針に糸を通す。
 - ・ 縫うことができるようになれば、自分でポーチを作ることができるね。
 - ・ 作業の途中は、針さしに針を刺しておけば、落とす心配がないね。
 - ・ 糸を斜めに切ると通しやすいね。長さは机の幅ぐらいが縫いやすいんだね。

玉結び・玉どめの仕方を知ろう ②

- 針と糸を使って、玉結び、玉どめの練習をする。
 - ・ 玉結びは、人差し指に糸をばってんに巻いて、ぐるぐるより集めて、中指で挟んで、ぎゅっと引っ張るとできたよ。
 - ・ 玉どめは、針を押さえて、針に糸を巻いて、また抑えて、引っ張るとできるよ。
 - ・ ○○さんは、とても上手だね。

ハンカチポーチ作りに挑戦しよう ③④⑤

- **なみ縫いを練習して、ハンカチでポーチを作る。（本時 5/10）**
 - ・ まっすぐになみ縫いをすることができた。
 - ・ 折り目にアイロンをかけて、チャコペンシルで印をつけたりする方法がわかったよ。
 - ・ 一枚のハンカチで袋ができた。歯磨きセットを入れようかな。

フェルトポーチ作りに挑戦しよう ⑥～⑨

- かえし縫い・かがり縫い、ボタン付けを練習して、自分でデザインしたポーチを作る。
 - ・ 模様に自分のイニシャルを入れて、周りがかがり縫いをしよう。
 - ・ 紙で一度作ってみると、出来上がりの感じがわかるね。
 - ・ 自分で作ったポーチだから大切にしたいな。

発表会をしよう ⑩

- 自分で作ったフェルトポーチを紹介し合い、これから自分で作りたいものや自分でできることを話し合う。
 - ・ みんなそれぞれに工夫しているね。
 - ・ 夏休みにはクッションを作ってみたいな。
 - ・ ひざ当てが破れたときやボタンが取れた時には、自分でなおせそうだよ。

○支援 →留意点

- ハンカチで作ったポーチとフェルトで作ったポーチを用意することで、手縫いで製作することへの興味をもたせる。
- 用具に実際に触れさせたり、拡大図を利用したりして、名前や使用方法を確認する。
- 用具を安全に取り扱う理由について考えさせることで、安全への意識を高める。

- 玉結びは、糸の端を指に巻くことや、糸をより合わせること、中指で糸を押さえながら引くことなど、児童にとっては難しい手順となるため、「ばってん→グルグル→さんで→ひっぱる」という合言葉を作って習得させる。
- 玉結びが端にできない場合は、玉結びの近くで糸を切るとよいことを知らせる。
- 玉どめも玉結びと同様、児童にとっては難しい手順となるため、「おさえて→まいて→まいて→おさえて→ひっぱる」という合言葉を作って習得させる。

- ハンカチポーチを作るという目標を立てることで、真っ直ぐに縫ってていねいに仕上げようとする気持ちを高める。
- ハンカチを折るところや、なみ縫いをするところがわかるように、一人一枚型紙を用意する。

- オリジナルのフェルトポーチを作るという目標を立てることで、工夫して作る喜びや、いろいろな縫い方、ボタンの付け方を理解しようとする気持ちを高める。
- 製作したいポーチを一度紙で作ってみることで、見通しやイメージをもたせる。
- 繰り返しの作業なので、個人差に応じた指導がしやすい。作業に時間のかかる児童には、名前をイニシャルにさせたり、自分ですすめる児童には、模様個所を増やすようにさせたりする。

～単元を通した支援・留意点～

- 初めてのことに不安をもったり、手先が思うように動かなかったりする児童のために、ペアやグループで活動する場を設ける。
- 針と糸を扱うことが困難と思われる児童のために、黒板に手順を示したり、実物投影機で教師による手本を示したりする。また、机間指導で個別に対応する。
 - 布地に合う針と糸を選ぶことや、チャコペンシル、裁ちばさみなど、適宜正しい使用方法を徹底指導する。
 - 学習の最後には、振り返りカードに自己評価や感想、友だちのよさを記入させる。それによって、観察による評価だけでは気づかない個々の課題を汲み取り、支援の方法や評価に結び付ける。

5 本時の学習 (5 / 10)

(1) 目標



- ・ 製作に必要な用具を安全に取り扱い、なみ縫いによる簡単な縫い方で、ハンカチポーチを作ることができる。(技能)

(2) 準備

裁縫用具、ハンカチ (四隅を三角形に折ってアイロンがけをし、チャコペンシルで縫い目に印をつけたもの)、ひも、製作手順を示した掲示物、実物投影機、学習カード

(3) 活動の流れ

○支援 →留意点 □評価

学 習 活 動	教師の支援と評価
<p>1 製作の仕方を聞いて、めあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前に練習したなみ縫いができるね。 ・ 丈夫にするために、隅は一針返して縫うんだね。 ・ チャコペンシルの線を縫うんだね。 	<p>→ 製作の見通しをもつことができるように、作り方の説明を行い、めあてをつかませる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><作り方の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なみ縫い：3～4mmごとに針を入れて、2針続けて縫う。 ・ かえし縫い：縫い始めと縫い終わりは丈夫にするために、一針返して縫う。 ・ 縫い方の手順：玉結び→かえし縫い→なみ縫い→かえし縫い→玉どめ </div>
<p>3mm～4mmの針目でなみ縫いをして、ハンカチポーチを作ろう</p>	
<p>2 ハンカチの四隅をなみ縫いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木綿に合った糸は7番か8番だね。 ・ 2～3針続けて縫うことができるようになってきたよ。 ・ 一か所できれば、後は繰り返しだから安心だ。 <p>3 ひもを通して、巾着の形に仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1本目のひもと反対側からもう1本ひもを通して、それぞれを輪にするよ。 ・ ハンカチ一枚で袋ができたよ。  <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まっすぐなみ縫いをすると、きれいにできあがるんだね。 ・ グループの友だちがひも通しを手伝ってくれてうれしかった。 	<p>→ 布がずれてしまう児童には、セロテープで固定し、ずれないようにさせる。</p> <p>→ 一つの隅で習得したことを四回繰り返すことで、作業の単純化を図り、基礎基本を習得させる。</p> <p>→ 作業の手順を十分理解できないと予想される児童のためにグループ活動を取り入れ、教え合いながら作業をすることができるようにする。</p> <p>○ 友だちに聞くことが苦手な児童A、児童B、児童Cには、個別に支援をする。</p> <p>→ 玉結び・玉どめの仕方を示した掲示物を用意し、うまくできないときには、確認できるようにする。</p> <p>→ 各テーブルに、なみ縫いやかえし縫いの見本を用意し、縫いながら確認できるようにする。</p> <p>□ なみ縫いできたか。(観察・学習カード)</p> <p>□ 製作に必要な用具の安全な取り扱いができたか。(観察)</p>